

いつもありがとうございます。

W53・1 青果発注書をお送り致しました。

御注文のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

・年末年始 特別受発注日程

	発注書配信日	受注締切日
W53・W1	12月15日(火)	12月17日(木)
	年内最終集荷日⇒12月28日(火曜)	
W02	12月18日(金)	12月22日(火)
	新年初出荷日⇒01月04日(月曜)	
W03	01月04日(月)	01月07日(木)

・ひと工夫で彩り豊かなおせちに お正月用販促パネル



クリスマスに続き、お正月のパネルのご提案です。

DROP BOX に収納されています、是非ダウンロードしてお使い頂ければ、幸甚です。

いつものおせちに、もうひと工夫して、簡単にちょっと華やかなメニューになるような内容になっております。

クリスマスと同様に切る・挟む・盛り付ける・組み合わせを変えることで、洋風になったり彩りがプラスされます。

例えば、パネルの左下のイラストですが、かまぼこをサンドイッチのようにして、いろんな具材を挟むだけでいろんなバリエーションができて楽しいですね。

中央下の黒豆とクリームチーズの組み合わせでスイーツのような洋風おせちも簡単に楽しめます。

煮豆、生ハムやチーズ、海鮮と一緒に置いていただければ、売り場もパネルをご参考に作っていただけるのではないかと思います。

クリスマスと同じく、専用ラベル・POP も作成しておりますので、売り場全体のアピールにも貢献できると考えております。

是非ご検討をよろしくお願いたします！（馬場真美）

・今年一年、まことにありがとうございました。

この発注書配信では、まだ年は明けてませんが、
発注書の中身はお正月イベント企画になります。

2021 年は、昨年出来なかったことを確実にクリアできるように計画を進めていきます。

クリスマス企画からスタートした毎月のイベントも、販売に確実に繋がる提案をして心がけます。



先の椎葉村七草セットのデザインもそうですが、各イベントごとのカラーがしっかりと反映出来ていて、売場で栄える事は間違いないと思います。

今年のラインナップは、レンコン・ごぼう・里芋・人参などの連年のラインナップに加え、兵庫県丹波市の山の芋を揃えることが出来ました。

来年に向け、丹波の黒豆など更にお正月に際立つ商品開発を進め、各企業さまで商品選定してもらえるラインナップを考えております。

昨日、彦根のパリヤさんより、先取りでたたきごぼう用に和田さんのごぼう 30 ケースの予約ご注文を頂きました。

その数量は 1 店舗の企業さまですが決して多いわけではなく、この担当バイヤーが売り込んでしまえば、

あっという間に売りつくしてしまう量なんじゃないかと、逆の心配になってしまうほどです。

思い付き出始めた弊社の松茸企画も、単店金額では断トツ一位の販売力を見せてもらえましたが、恐らく、このご時世コロナの状況も踏まえ『チャンス』と思い販売強化をされたのでは…と推測致しました。

私は社会人になった時、父親に『チャンスの分かる人間になる！』と言ったことを覚えています。

が、あれから 20 年弱経ちますが、いつまでもチャンスを逃してしまってから気が付く日々です。

精進します…(有安海)

・熊本県産 特別栽培 澤村さんの栗南瓜 恋するマロン



恋するマロンの生産者の皆様は、大変美味しく栽培されるようになりました。

おかげさまで、南瓜の一時期を築くことが出来たと自負しています。

事実、この南瓜を送って来られたとき、生産者の澤村さんも、

『つかんだような気がする』と言っ

ていました。

彼が恋するマロンを作るようになったのは、2年前です。

その前年に連絡があり『吉田さん、南瓜を作ってみただけど・・・』との事でした。

『品種は？』と聞くと、『栗ゆたか』って返事でした。

澤村さんは有機農業ひと筋で遣って来られた方です。

いわゆる、有機農業の方にありがちな、有機農業を志すあまり、

有機栽培であれば、商業の事を無視しても良いという方ではありません。

生産現場の我を通す農家は多いのですが、澤村さんはあくまで、

有機栽培の普及を目指しておられるので、

普及は売れてこそ、だという事をキチッと理解されています。

『なら、送ってみてよ』とお願いをしました。

私は、南瓜の栽培には、どうしてもうどん粉病の対策に農薬が必要だと考えていました。

自分自身で南瓜は小豆島で7年作り続けました。

苦勞の拳句、美味しい南瓜を栽培できるようになりました。

節減対象農薬ではない、イオウフロアブル、G-ファイン等使用した時期もありましたが、なかなか葉が最後まで健全な状態で残ってくれませんでした。

南瓜の葉っぱは食べる訳では無いので、少々病気になってもいいんだ、それよりも化学合成農薬の使用はやめようという考えもあります。

でも、葉っぱが病気になっているのに、健全な実がなる訳はありません。

葉は食べませんが、葉が光合成をして実にでんぷん質を形成させます。

3度目の栽培の時、うどん粉病にやられた畑の中に、ひと筋だけ青々とした一列がありました。

『 周りがすべて真っ白になるほどなのに、何故感染しないのだ 』と、とても不思議に思えました。

『 あれっ、どういうことだ 』と思い、その蔓を株元から順に蔓先まで丁寧に見て行きました。

すると、何と実が付いていませんでした。

驚愕の事実です。

そこで、『 うどん粉病の菌は持っているが、症状が、つまり発症するか否かの違い 』

『 発症は、受粉した実を成熟させるために、蔓に負荷が掛かりそれでその負荷に耐えられなくて発症してしまう 』

『 実が着いていなければ、蔓だけ伸ばしていればいいので、負荷が掛からなくて発症を抑えるのに十分なエネルギーがあるから大丈夫なのだ 』と気づきました。

そこで、私が得た結論は『 仕方がない 』でした。

『 葉っぱは食べないので、少々農薬を掛けてもいい 』と思ったのでした。

次の作で、予め着荷すればうどん粉病が発症すると分かっていたので、着荷後毎日注意深く畑に行っては葉っぱの状態を見ていました。

すると、ある日昨日まで輝いていた葉が、くすんで見えました。

すぐさま家に帰り、何を散布していたのか忘れてしまいましたが、節減対象農薬の殺菌剤を準備し、散布しました。

その後も何日も、南瓜の葉っぱを見て暮らしました。

2週間ほどして、また葉がくすんできました。

もう一度、殺菌剤を散布しました。

そうすると、実を収穫するまで葉は健全な状態を保ってくれて、それなりの南瓜が採れるようになりました。

更に、美味しい南瓜を作る為に、それなりの工夫はしていましたが、おかげさまで人さまに褒めて頂ける南瓜を採ることが出来るようになりました。

結論として、南瓜だけはどうしても節減対象の殺菌剤を適時に散布しないと、2回散布しないと美味しい南瓜は作れない、に至りました。

話しは戻りますが、澤村さんが送ってくれた南瓜は、ちゃんと光合成をしていました。

『 ？ ？ ？ ？ ？ 』 と思いました。

あれっ と思っても、目の前にちゃんと光合成した南瓜があることは事実です。

そこで、トライしてみようと思い、『 澤村さん、実は美味しい南瓜があるんだ 』 と、恋するマロンの紹介をして、

『 来年、この種で栽培してくれば、いくらでも作ってくれる分、全部販売する 』 と伝えました。

そして、その依頼の栽培が佳境に入る頃、畑を見に行きました。

有機栽培なので、節減対象外の農薬は使用していますが、収穫時期が使っているにもかかわらず、葉っぱは隆々としていて、我が目を疑いました。

立ち尽くして、考えると、地力が尋常ではないほど豊かであることに気が付きました。

算数みたいなもので、着果したことでその実を育てるエネルギーが足りず発症するのであれば、実を養生するに十分なエネルギーがあれば、葉自体も発症せずに済むんだ、というもっとも簡単な話でした。

この年の澤村さんは、それなりの品質と収量を出荷してきました。

これが2年前です。

きっと、澤村さんは、南瓜は簡単だと思われたと思います。

人間というのは面白いですね。

この慢心があっただろうか、次の年は全滅です。

何が理由かは知りません。

失敗すれば多くは語らないし、人の失敗の理由を聞くほど私も野暮ではありません。

ただ、ああ、せっかく私の常識を覆してくれたのに、澤村さんの南瓜栽培も終わったかなと思いました。

訪問しては、あれこれと、話しはしていましたが、所詮はとまと農家なのかなあと、半ば諦めていました。

今シーズンの南瓜の様子をシーズン初めに聞くと、今年も直播きだとの応えに、期待はまったく無くなりました。

途中に、状況を聞くと、『発芽が7割程度』だとの事で、理由は直播きにあることは明白なので、

『何故』と聞くと、種屋が大丈夫と言った、との事でした。

ひとが良いのもほどがある、種屋は種が沢山売ればそれでいいと思っているし、

最初から、本人が育苗を面倒がり、きっと『直播きでも大丈夫だよなあ』と聞いたのだと想像しました。

『この横着もん』と心の中では叫びましたが、声には出しませんでした。

結果は、画像を御覧の通りで、とても立派に育った南瓜が届いています。

でも、収量は当然7割程度です。

味はバツグンです。

来シーズン、直播きするか、育苗するかは、何とも言えません。

育苗すれば、10割の収量で、この単価で充分利益を取れる、とは言いましたが……

暮れの忙しい時に、私の恋するマロンの栽培と販売の奮戦記になってしまいましたが、
実は、まだ南瓜事業として、画期的な事が今シーズンは起こりました。

それは、年明け W 3 の御案内で出来ると思います。

栽培される南瓜、南瓜を栽培する農家、販売する私ども、真剣にやれば話しも尽きる事は
ありません。

・兵庫県産 特別栽培 養父養生にんにく

今年は非常にご注文を頂きましてありがとうございます。

2018年より取組が始まり、これで2年と半年がたちました。

昨年からはホワイト六片は特別栽培になり、今年は金郷純白も特別栽培になり

おかげさまで皆様よりたくさんのお注文を頂きました。

ですが、ここにきて今年の天候不順の影響が強く出てきて

秀品率が非常に悪く、Lサイズがほぼ終わりに近づいてきました。

大変申し訳ございません。

以降はMサイズと2Lサイズを併せてご案内させていただきます。

Lサイズを所望の方々にはご迷惑をおかけしますが、宜しくお願い致します。(吉田麻衣)

・今週の特売

長野県産特別栽培市川さんの王林

北海道産特別栽培中村さんの玉ねぎ M サイズ

・商品案内変更

静岡県産バターナッツ……終了

兵庫県丹波の山の芋・・・終了

北海道産 JAS 剣淵タマネギ M・・・終了

高知県産特別栽培さといも・・・終了

青森県産特別栽培もりのかがやき(訳アリ)・・・在庫販売

兵庫県産特別栽培養父養生にんにく L サイズ・・・在庫販売

それでは、今週も御注文の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

有限会社アルファー

吉田清一郎